

# 幸区区民会議

## B部会(安心・思いやり部会) 経過報告

平成22年11月10日

### 1. これまでの検討の流れ

第1回全体会議(平成22年7月29日)



第1回専門部会(9月6日)  
新規テーマの絞り込み  
部会の名称 正副部会長の互選



第2回専門部会(10月5日)  
審議テーマの具体的な検討について  
部会の名称について



第2回全体会議(平成22年11月10日)

## 2. 第1回専門部会： 新規テーマの絞り込み

第1回の全体会のあと、各委員が取組テーマを提案し、下記の2点を新規テーマの候補案とした。

### 提案された取組テーマ

子供やお年寄りに優しい環境

高齢者を地域ぐるみで支える

独居後期高齢者へのサポート体制

救急医療に対する意識の向上

緑化推進重点地区指定に向けて

地縁組織とボランティア組織の連携

住民の交流拠点整備

### 新規テーマ候補案

高齢者の日常生活  
に対するサポート体制の強化  
(救急医療情報を含む)

地域コミュニティ  
活動の推進

## 2. 第1回専門部会： 新規テーマの絞り込み

また、関連する先進事例を収集・整理し、テーマの絞り込みの資料として活用した。

「いきいき大作戦」の展開（川崎市）

緑化推進重点地区（川崎市）

救急医療情報キット（港区、夕張市）

高齢者による子育て支援への

取り組み（埼玉県富士見市）

NPO法人「小杉駅周辺エリアマネジメント」

小倉の駅舎「陽だまり」

（幸区社会福祉協議会）



## 2. 第1回専門部会： 新規テーマの絞り込み

各委員の提案と、それに関連した事例の資料から、  
テーマの絞り込みを行った

(主な議論)

- ・ 高齢者とコミュニティは密接な関係しており、同時に取り組んでいけばよい。
- ・ 困っている高齢者の現状を把握するために、まずは調査をすることが大事である。
- ・ 困っている高齢者の問題は、まさに時のテーマである。
- ・ コミュニティの拠点づくりには、人が集まる仕掛けづくりも重要である。



< 絞り込んだ新規テーマ >

高齢者サポートと地域コミュニティは、ともに関連のある重要な課題であることから、同時並行で審議を進める。

## 2. 第1回専門部会

部会の名称

・ 継続審議

正副部会長の互選

部会長：土倉委員

副部会長：神谷(美)委員



## 2. 第2回専門部会： 具体的取組内容の検討

第1回専門部会終了後、審議テーマ(新規・継続)の具体的取組に関し、各委員が意見を事務局に提出した。

各委員の意見に基づき、具体的に取り組む内容の検討を行った。

新規テーマ：高齢者のサポート体制と地域コミュニティ

継続テーマ：夢見ヶ崎周辺魅力発信事業

## 2. 第2回専門部会： 市担当課からの情報提供

B部会では、新規テーマに具体的に取り組む前に、高齢者の実態について把握することが重要であるとの認識から、市担当課から市内の高齢者の実態に関する説明を受け、質疑・意見交換を行った。



## 2. 第2回専門部会：市担当課からの情報提供

(質疑・意見交換の主な内容)

- ・高齢者を狙った詐欺は、認知症の方で一度被害にあった方が狙われやすい。
- ・詐欺を未然に防ぐ対策は取りづらい。市では、ハンドブックを作成し、配布している。
- ・認知症高齢者の講座が病院や農協等で開かれている。
- ・高齢者で見守りが必要な人は、9000人中42名程度。
- ・高齢者に関する情報が把握しづらいのは、個人情報保護の問題がネックとなっていることが主要因。高齢者がいる家庭の側から門前払いを受ける。
- ・予めある程度の情報が把握されている地域は調査がしやすい。
- ・地域で独自に情報を調べ、それをストックしておくことは個人情報保護の問題はないので、是非進めてほしい。
- ・高齢者の情報把握の上でカギを握る民生委員も高齢化している。

## 2. 第2回専門部会：具体的取組内容の方針

(主な議論)

### <交流の場づくりについて>

- ・交流の拠点づくりは、高齢者・子育ての両方の解決につながる。
- ・常時開設は難しい。毎日ではなく、決められた週の開設が現実的。
- ・空き店舗や学校施設等を活用するとよい。
- ・交流の「場」は「屋内の施設」に限らない。夢見ヶ崎動物公園など屋外も「場」になり得る。
- ・周囲との交流がない高齢者については、元気な高齢者が引っ張り出してくる形がよい。

### <救急医療情報キットの幸区版の検討について>

- ・他都市の事例だと、概ね65歳、70歳以上の高齢者に配布している。
- ・幸区の65歳以上人口は約3万人であり、無料配布をするには多額の予算が必要になってしまう。
- ・できるだけお金をかけない方法を検討していく。

### <共通する議論>

- ・周囲との交流がない高齢者の調査・把握が重要である。

< 夢見ヶ崎公園の魅力発信について >

- ・お金をかけずに、夢見ヶ崎公園の魅力を高め、発信していく方法を、ソフト面から検討していく。



< 具体的取り組み内容の方針 >

当面は、以下の3つの事項について取り組むこととした。

- ア. 交流の場づくり(「陽だまり」を参考とする)
- イ. 救急医療情報キットの幸区版の検討
- ウ. 夢見ヶ崎公園の魅力発信(ソフト面)

2. 第2回専門部会： 部会の名称(継続審議)

部会の名称については第1回専門部会において、審議を継続することとなっていたが、各委員から出された案に基づき、審議した結果、「**安心・思いやり部会**」とすることとなった。